

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100375		
法人名	社会福祉法人 紀伊福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム てまりの里		
所在地	和歌山県和歌山市府中20番地1		
自己評価作成日	平成24年1月17日	評価結果市町村受理日	平成24年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3090100375&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者お一人おひとりの心に寄り添うケアに努めています。また生き生きと毎日を送って頂けるよう
 有用感や達成感を味わって頂ける取組みに力を入れています。ご利用者のできた時の満足そうなお
 顔は私たちの宝です。社会との関わりが多く持てるよう地域社会に出かけたりご家族様との絆を深め
 て頂けるようご家族と一緒に過ごせる機会を多く設定するようにしています。私たち職員一同、“グ
 ループホームてまりの里はいい所! ”、“その時には入りたい所!”胸をはって言える所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を介護を受ける立場に固定せず、日々の生活に欠かせない作業を利用者と職員が協
 働して行う事により、利用者一人ひとりが有用感や達成感を味わいながら生活できるように事
 業所全体で支援している。利用者がこれまでに築いてきた家族等との関係も重視しており、積
 極的な働きかけを常に行い関係の継続を実現させている。又理念に掲げる通り、事業所は地
 域社会の一員であるとの認識のもと、地域の行事等への参加及び事業所での研修会や行事
 の開催を通して、双方向の交流を推し進めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有するために毎朝ミーティングの時に読み合わせを行い、かつグループホーム独自の目的も合わせて実践につなげている。	地域社会の一員である事を明示した理念を事業所内に掲げると共に、毎朝のミーティング及び月毎のスタッフ会議が理念に立ち戻る場となっている。管理者と職員は理念の共有を確認し合いながらケア実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを持てるように、地域の行事や祭りに、ご利用者ともども積極的に参加している。現在は地域の方々と日常的な交流が進んでいる。	理念の実践には地域との活発な交流が不可欠であると考えており、地域の行事にはボランティアの方々の支援を受けて、事業所全体で積極的に参加している。又事業所が開催する研修会には多くの地域の人々の参加が実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて研修会を開いたり、年4回「てまりランド」と「グループホームだより」を発刊し、認知症の啓発に努め地域の方々にご理解頂き、相談者には納得が行くまで説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、ご家族様やご利用者様、地域の代表者の方々や支所長に集まって頂き、そこでの意見や要望などをサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であると位置づけ、利用者・家族・地域の代表・知見者・行政の参加を得て2ヶ月に1回開催している。会議は、事業所からの報告と共に参加メンバーから質問、意見等を受けるという双方向の会議となっており、そこでの意見等を具体化し、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の「てまりランド」と「グループ通信」を市町村に置いて頂いている。運営推進会議には支所長に参加頂き地域や市政の情報やアドバイスを頂戴している。日頃からも相談し地域行事に参加するなど協力関係を築くように取り組んでいる。	市の高齢者福祉担当課や出先機関に定期的に広報紙を届けており、その際に事業所のサービス内容を積極的に伝えている。又運営や処遇面の課題についての話し合いを通して、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については全職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアを実践している。玄関やご利用者の居室の施錠をしない事は当然の事と捕らえています。	法人全体及び事業所単位での研修並びに外部研修の受講により、代表者及び全ての職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。玄関や居室の施錠をしない事は元よりスピーチロック等についても職員間で確認し合いながら身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように職員間で指摘し合い、虐待の危険を早期に気づき防止改善し、処遇に当たるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修会を開いている。パンフレット等を施設入口に置いている。ご利用者にはこの制度がある事を説明し制度が活用できるよう支援している。現在はまだ利用をされていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書をもとに、十分に説明を行い利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、安心してサービスのご利用をして頂けるよう、利用者や家族等に理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族さまには面会に来られた時に随時意見や要望を聞いていますが、2ヶ月に一度、運営推進会議を開催しご利用者や家族が意見・要望を管理者や職員、外部者へ表すことができ、又「意見箱」の設置をして、より広く要望を表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に開催する運営推進会議は、利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員だけでなく外部者に表せる機会となっている。又生活上の必要物品の購入を家族等に依頼する事により面会の機会を増やす工夫をしており、面会の際に意見、要望を聞き取っている。事業所内への意見箱の設置も方策の一つであり、出された意見、要望を運営に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、スタッフ会議も頻繁に行っている。職員からの意見や提案にはいつも耳を傾ける様に努め、それらの意見等を運営に反映させている。	定例のスタッフ会議は職員の全員参加を原則としており、代表者や管理者が運営に関する職員の意見、提案を聞く機会となっている。会議の場だけではなく、生じた課題については随時管理者と職員が話し合い、直ちに対応するか、代表者に上申する事で運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。有休や公休も本人の希望を考慮している。又モチベーションを上げる環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や介護技術やご利用者の処遇、ご家族や来苑者の対応など、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。母体施設の行事に参加してそのグループホームとの交流する取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、ご本人が安心できるよう環境を整備し、安心を確保するための関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、ご利用者様の様子を随時報告し離れていても安心してまかせて頂ける様な信頼関係を構築している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。なるべくご家族様にも協力をお願いし、ご家族様との絆を大切にするようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を介護される一方の立場におかず、過去に働いていた事や得意とされる分野の事など人生の大先輩として尊敬し、指導をして頂きながら、暮らしを共にする者同士支えあう関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活においてご本人の生活状態はご家族が来苑時にご報告したり、要望などを聞いたり、又広報誌に載せたり、ご家族と一緒に行事に参加して頂いたり、ご家族様の絆を大切にしながら共にご本人を支えていく関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されても馴染みの関係が継続できるよう再々訪問して頂けるよう、また入居された方が出かけて行き馴染みの人々や場との関係が継続できるようご家族にもご協力頂きながら支援している。	馴染みの人との関係継続については面会の依頼はもちろんのこと、事業所で催す行事等の機会を捉えて、単なる参加ではなく運営の支援を依頼する等訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。又馴染みの場所についても、職員同伴で出掛ける事もあるが、原則的に家族等の協力を得ての外出が実現している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士仲良く、安心して楽しく過ごせるように、利用者様の性格等考慮し一人ひとりが孤立せずに、良い関係で関わり合い、支え合えるような支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	未だ退苑されたり、サービス利用が終了された方はいないが契約が終了しても、今まで培われた関係は大切にし、ご家族や本人の経過をフォローし、相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努め、食事に対しての嗜好が激しく制限が多い利用者に対しては特別メニューを考えたり、また一般浴が不可能な方は特殊浴槽の利用をするなど、本人本位に検討している。	本人や家族等からの聞き取りを基本としているが、意思疎通の困難な利用者については様子の観察を通して一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。管理者、職員はスタッフ会議や主治医を交えたカンファレンスで検討を重ね、センター方式を利用して個別処遇に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活されていた一人ひとりの生活歴や馴染みや習慣になっている事、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、これまでの暮らしのスタンスをあまり変えない様な環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態(食欲、顔色、活気等)、有する力等の現状の把握に努め、異常・変化があれば代表者・主治医に報告し、指示を頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向にそって、本人がより良く暮らすためのケアのあり方について必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族等の思いや意向を踏まえ、本人、家族、主治医等の関係者と話し合いを行い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。更新は3ヶ月毎に行うが、モニタリングを通して新たに課題が生じた場合は、介護計画が現状に即したものとなるように随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個人の生活記録と医療面での記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応し、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。同施設の小規模多機能型居宅サービスご利用の方を介護が必要な時、グループホームで介護をしたり、体験を受け入れたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、地域の行事に参加したり、スーパーに買物に行ったり、定期受診に病院へ行くなど外出等を行うなどの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の先生の往診と2週間に1回の定期受診を受けている。急な状態変化があれば随時の電話相談や緊急往診も受けられる。一週間に1回主治医が来所してくれて、ケアカンファレンスを行うなど主治医と事業所の関係づくりを行っている。	本人及び家族等の希望により、複数のかかりつけ医による診療体制をとっている。往診及び通院での受診が確保されており、看護師による定期の訪問も実施されている。急変時には、往診又は電話で指示を受ける事も可能である。主治医との定期のカンファレンスを通して、情報を共有しながら適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4回(月・火・木・土)、担当の看護師が来所しご利用者の様子、状態変化等を診て主治医に報告し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	未だ入院された方はいませんが、ご家族様が病院からアドバイスや指示を受けたり退院後のケアについての指導を受けたりした事について出来るかぎりの支援をする予定です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービスご利用時に看取りに関しての伺い書を頂き、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時の利用者の状態に応じて、重度化や終末期についての本人、家族等の意向を確認すると共に、事業所での対応が可能である旨を説明している。しかし意向は変わり得ることから状況の変化を見極め、本人、家族、主治医等の関係者と話し合い、方針を共有しながらチームで支援できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、緊急連絡体制があり、全職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に勉強し、実践力を身に付けており、全職員がだれでも即座に緊急時の対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ご利用者と一緒に地域の協力を得て避難訓練を行い消防の指導を受け、安全に避難できる方法を全職員が身につけている。	年2回、夜間の災害発生も想定しての避難訓練を実施しており、消防の指導を受けている。地域のボランティアの協力を得て、職員は利用者の不安をおおらないように注意しながら一緒に訓練を行い、確実な避難方法の修得に努めている。事業所内に水・食料等の備蓄をすると共に、浴槽に水を張って消火に備える等の対策もとっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員はご利用者一人ひとりの人格の尊重と、プライバシーの重要性を認識しており、排泄の失敗や着替えなど他者に知られない配慮や声かけをするなど、その方の誇りやプライバシーを損ねない様な心配りに努めている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを確保する事が対人援助の基本原則である事を全職員は認識しており、あからさまな介護や声高な言葉かけを戒め、目立たずさりげない対応を心掛けている。更に徹底化を図る為事業所全体で日常的な確認と改善に取り組んでいる。利用者情報の取扱いと管理についても周知徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、声かけする時は「～しますか?」、「～はどうです?」等疑問符をつけた声かけをし、自己決定して頂けるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく、その方の体調や一人ひとりの気持ちやペースを大切に考え、その日をどのように過ごしたいかという希望に応えられるような支援を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回理美容の方が来所し、希望があれば散髪を行っている。また外出時はその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、食事の献立をみんなで考え食材の買い出しに一緒に行き、調理はキッチン周りにみんなが集まり、調理をみんなで行う。最後の配膳するまでをほぼ全員で行っている。食器洗いも食事が終わった方から順に洗って頂き出来ない方の分も出来る方が助けている。	食事の献立は利用者と相談しながら決め、買い出しに一緒に出掛けているが、食材の揃い具合によりその場で変更することもある。利用者一人ひとりの力を活かしながら、調理、盛付け、後始末等の一連の作業を利用者と職員が共に行っている。同じ食卓を囲み評価を交わしながらの楽しい食事は、有用感、達成感を味わえる場ともなっている。自家菜園の収穫物も献立に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。自力摂取が困難な方や食事量にバラつきがある方に関しては個別に食事量チェックを行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄の自立にむけた支援を行っている。紙オムツを使用していた方が使用しなくても良くなった方がいます。	排泄の失敗の失敗を防ぐ為、チェック表等を利用して一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレに誘導する事を基本としている。紙パンツやパッドを使用している利用者についても、職員間で検討を重ねながら段階をふんでトイレでの排泄や、排泄の自立が可能となるように支援しており、成功した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。主治医の指示のもと排便コントロールが上手く出来ています。又ご家族様がヤクルトやヨーグルトを持参されている方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。また外出や外泊予定の方や体調不良の時は体調が整いしだい入浴して頂いている。また季節によって菖蒲湯・ゆず湯・みかん風呂など楽しまれている。	一人ひとりの希望を優先すると共に、外出や外泊の予定に合わせての入浴の実施もある。体調によっては足浴に切り替える等個々の状況にそった支援をしている。又季節感を味わいながら入浴を楽しめるように利用者の提案を受け、趣向をこらしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。夕食後パジャマに着替え入れ歯の洗浄も行ったあと就寝まで居室でテレビを見て過ごされたり居間で他のご利用者とお話されたり就寝前の団らんを楽しまれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。服薬介助は慎重に行い確実に服用して頂くように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。またグループホームの庭の花壇に春は野菜や花を植えたり、一人ひとりの得意分野で活躍できる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。散歩・買物・ドライブの他、生家が見たいと言うご利用者にはご家族にご協力を頂き希望をはたす事ができた。	天候や季節に拘らず戸外に出掛ける事を原則としており、事業所は利用者が感じる五感刺激が生活にとって重要であると考えている。本人の希望する普段は行けないような場所への外出については家族や地域のボランティアの協力を得て実施している。事業所独自の外出支援ノートは家族等と情報を共有し、連携を図る上で有効である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。一緒に買物に行ったり外出時ご自分の財布を持ちご希望の物をご自分で買って頂きおつりを受け取るまで職員が見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に年賀状を書かれたり、暑中見舞状を書く機会を作り、息子さんや娘さんに書いておられる。電話はご自分ではかけられないが、ご本人の強い希望で取り次ぐ時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。換気やエアコンの調整には十分気を付け飾り棚には季節の物を置くなどの心配りをしている。	共有の空間の音や光の刺激、換気や温度の調整には全職員が日常的に注意を払っている。ホールの棚や壁には季節の花や行事の写真等が飾られ、利用者同士で楽しく過ごせる場となっており、備えられた新聞は日々の話題を提供している。職員は利用者や家族等の外来者の感想や気づきをもとに暮らしの場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。1人ひとりの状態に合わせて居心地良く過ごして頂けるよう時にはスタッフが利用者間を取り持ったり繋げたりしながら良い関係を作るなどの配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。又ご本人の若い頃の写真や思い出の深い物(例えば愛犬の写真、連れ合いの形見など)を持って来て頂き、ご自分の家と変わらない様な配慮を心掛けている。	事業所は、共同生活の中での個室の意味を重視しており、その人らしく暮らせる部屋となるように使い慣れた馴染みの物等を利用して自宅との差を感じさせない工夫をしている。本人、家族等と相談して行っている模様替えも楽しみの一つである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう、ご自分の物はご自分で管理し、できない事は支援している。年間の日めくりをみんなで作り日にちと曜日を毎日付け替えている。	建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう、ご自分の物はご自分で管理し、できない事は支援している。年間の日めくりをみんなで作り日にちと曜日を毎日付け替えている。		